



今までの雑草防除方法

1

除草剤散布 (化学的雑草防除)

除草剤の種類、処理時期、施用量を間違えると、環境汚染を引き起こす恐れがあります。除草目標植物に適した除草剤を用いることにより防除可能です。

2

刈取り (機械的雑草防除)

刈り取り時期や回数、刈り取り高さによって効果は異なりますが、多年草雑草や一部草丈の低い植物に対して優先化を促すこともあります。労力がかかることと、刈り取った草の処分が大きな問題です。

3

マルチ・防草シート (物理的雑草防除)

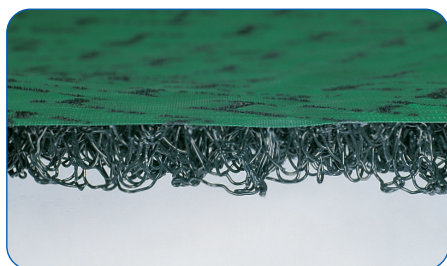
プラスチックフィルムや防水シート、不織布シート・マット、稲わら等を地表面に被覆し、光、温度、水等を調節する事により雑草の成長を止めます。地下への水の浸透が無くなる恐れがあり、飛来種あるいは地下茎で生育、発芽の際に光を必要としないといった一部の植物に対しては効果が得られません。



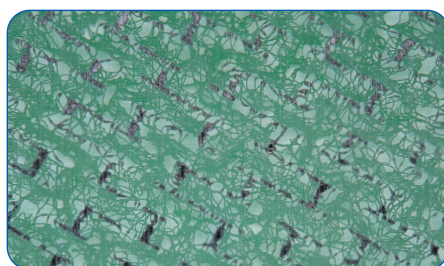
ウィーズレスマット®の構造

フィラメントが三次元に複雑に絡み合った空隙の大きな立体網状体と、目合いが細かいメッシュシートとの複合製品です。

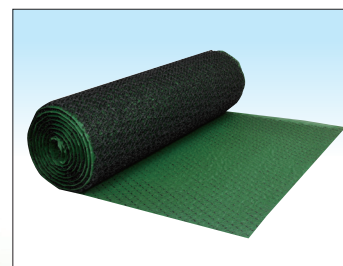
今までの”雑草をただ防除するのではなく、植物としての利点を生かす”環境保護も考えた、まったく新しいマットです。



断面



上面



耐圧縮性のある立体網状体は地表面とメッシュシートとの間に適度な空間を作り、植物の生育空間となります。さらに空間があることにより雨水が滞留せず、乾燥を早めることからメッシュ上部の飛来種を発芽をさせない役目も果たしています。メッシュシートの目合いより小さな種子は、ウィーズレスマット®内部で生育します。

立体網状体とメッシュシートは強固に融着されており、植物の生育方向を矯正し、横方向への生育を促します。同時に根を張り巡らせることにより地盤補強を行います。

注) 木本類は制御できません。